









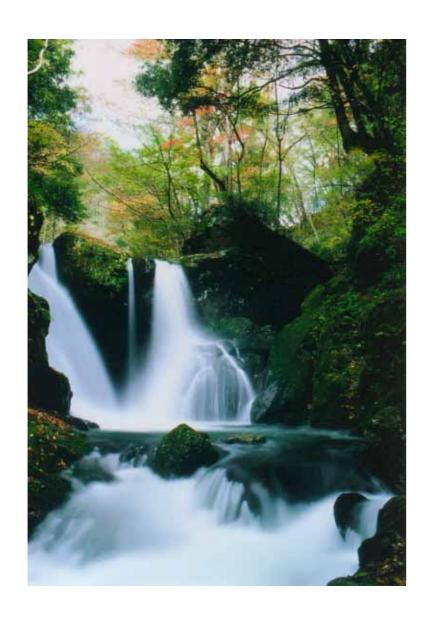
共生の社会を

めざして

まちを輝かせるのは、あなた。

「まちづくりと人権問題に関する意識調査」結果から

宍 粟 市



目 次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・	,	•	
そっとしておけば部落差別はなくなるのでしょうか		•	
なぜ相手の身元を調べるのでしょうか ・・・・・・	,	•	4
なぜ「ねたみ」が生まれるのでしょうか ・・・・	,	•	(
問題解決は「動く勇気」です ・・・・・・・・	,	•	8
同和地区に対する偏見はみんなの損です ・・・・・	,	•	10
人権問題の解決は最重要課題です ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	,	•	1:

はじめに

宍粟市では、すべての差別をなくし、人々 が真に人間として尊重される人権文化の息づ くまちづくりをめざして様々な取組を行って います。

しかしながら、地域社会では、今なお同和 問題をはじめ、子ども、女性、高齢者、障が いのある人などの人権に関する深刻な問題が 存在しています。

今回のまちづくりと人権問題に関する意識 調査は、これまで取り組んできた人権教育や 啓発の成果と課題を明らかにした大切な内容 になっています。この調査から得られた内容 を糧に、今後の人権教育及び啓発の効果的な 取り組みに活用していきたいと考えます。

最後に、調査に多大なご支援、ご協力をいただきました市民の皆様並びに調査分析の全般にわたって担当いただきました国連NGO横浜国際人権センターヒロシマブランチの皆様にお礼申し上げます。

宍粟市長 田路 勝



調査概要

調査実施期間:2009年7月 調査方法:アンケート方式 調査対象者:20歳以上宍粟市民

配布数 : 2158 票 (郵送)

回収数 : 1249 票 (回収率 57.9%)



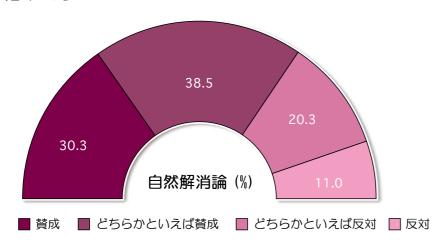
そっとしておけば部落差別はなくなるのでしょうか

[質問] 同和問題に関して「差別差別というから、いつまでも差別が残るのだ。そっとしておけば、差別は自然になくなる」という意見があります。この意見に対して、あなたはどう思いますか。

回答(選択)

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対

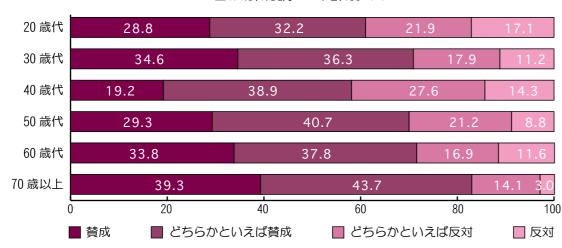
全体の結果です



7割近い人が「何もするな」という意見のようです。驚くべき結果です。

年代別に見てみましょう

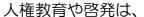




若い世代でも「何もするな」という意見に流されています。30歳代では7割強です。 学校での人権教育が、子どもの人権意識に影響していないのでしょうか。 差別は、遠くにあるのでもなく、昔のことでもありません。 「いま、ここ」にあるのです。私たちの身の回りにあるのです。

差別をなくすための教育や啓発を「するな」という人。 それは、「差別の痛みを感じていない」人。 それは、「差別の存在に気付いていない」人。 それは、「差別をないことにしておきたい」人。

そんな人が多数を占める宍粟市だとすれば、 悲しくないですか。

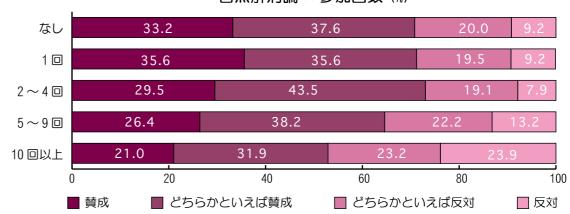


「間違って知らされている人に正しいことを教える」ために、 「知らなかった人に正しく伝える」ために行われているのです。

市民生活に何か課題があれば、市(行政)の責任で取り組みます。 差別も一緒です。差別で困っている人がいる限り、市は解決を図ります。 だから、教育や啓発に力を入れているのです。

教育、啓発を進めると、これだけ変わってきます。

自然解消論×参加回数(%)



教育や啓発への参加回数が増えていけば、「何もするな」という考え方も、 少しずつではありますが、確実に変わっていくことが分かります。

その気になれば、誰でも変われるのです。





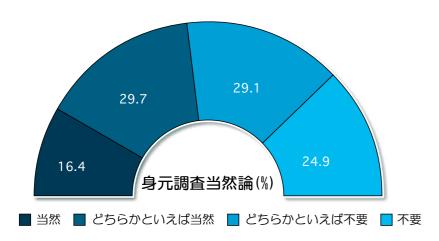
なぜ相手の身元を調べるのでしょうか

質問 結婚をめぐり「子どもの結婚相手は本人同士の問題ではないので、親や身内として結婚相手の身元を調べるのは当然だ」(当然)と「子どもの結婚は本人同士の問題なので、親や身内として結婚相手の身元を調べる必要はない」 (不要)の二つの意見がありますが、あなたはどちらですか。

回答(選択)

1. 当然 2. どちらかといえば当然 3. どちらかといえば不要 4. 不要

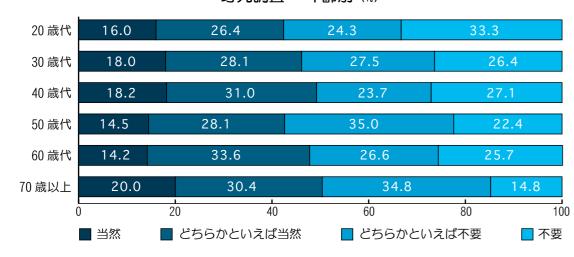
全体の結果です



市民の半分以上は「身元調査は必要ない」と考えています。

年代別に見てみましょう

身元調查×年齢別(%)



若い世代の意識が、他の世代と変わらない結果に驚きます。

結婚は、人生の中で大切なイベントです。 何の理由も根拠もなく結婚に反対する人がいます。

反対している相手がどのような人かも全く分からず、 相手の親がどのような人生を送っているのかも知らず、 自分勝手につくり上げた予断と偏見で反対する。 そんなことが「ひと」として許されるでしょうか。

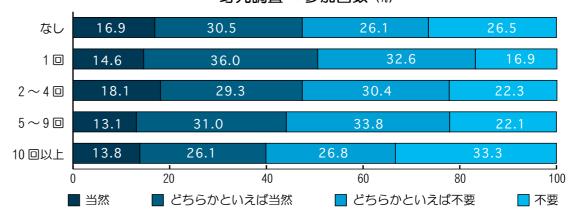
幸い、半数以上が「不要だ」と考えています。 しかし半分弱の人が、まだ、「当然だ」と思っています。

そもそも身元調査の目的は何ですか。 自分の息子や娘が決めたことに対する不信でしょう。 自分の子どもの判断が「信用できない」と言っているだけでしょう。

調査結果で最も深刻なことは、若い世代に「当然だ」という人が増えていることです。 結婚相手を決める時くらい、自分の判断と意思を持つ若者でありたいと思いませんか。 情けない傾向になってはいませんか。

教育、啓発を進めると、これだけ変わってきます

身元調査×参加回数(%)



教育や啓発の参加回数が増えていけば、「当然だ」という考え方も、 少しずつではありますが、「不要だ」という方向に変わっていくことが分かります。

その気になれば、あなたも変われるのです。





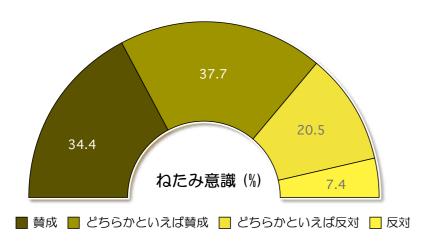
なぜ「ねたみ」が生まれるのでしょうか

[質問] 同和問題に関して「同和対策など、行政が同和地区の人にだけ特別の施策をするのは不公平だ」という意見があります。この意見に対して、あなたはどう思いますか。

回答(選択)

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対

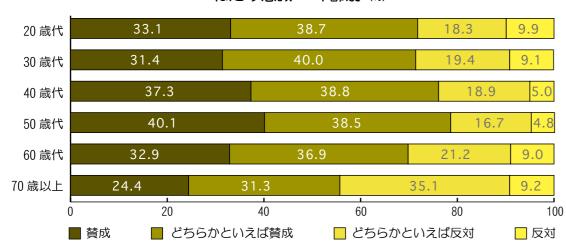
全体の結果です



7割以上の人が、何らかのねたみ意識に捕らわれています。

年代別に見てみましょう

ねたみ意識×年齢別(%)



ここでも、若い世代のねたみ意識の強さに驚きます。

同和対策事業や制度は、長い間行政的に放置されて、 悪い条件にあった地域を改善するため国が決めたものです。 何年も前に法律は切れて、現在ではまったく行われていません。

法律があった時期でも、宍粟市の対策事業は、 関西地域の水準で言えば、不十分な状態でした。 市内で、「ねたまれる」ような事業が行われていますか。 同和地区の住居環境が、地区外より良くなっていますか。

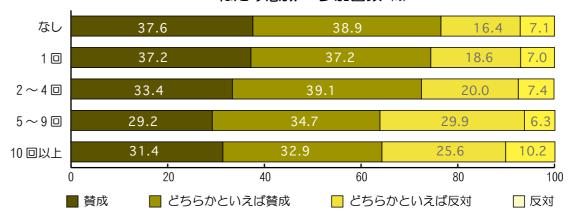
「良くなった」からねたんでいるのではなく、「良くなること」に対してねたんではいませんか。

自分たちより「下」に位置づけ、 自分たちと「同じ」か、「上」になる可能性に対して腹を立てる。 まさに、それこそが「差別意識」でしょう。

対策事業など知らない若い世代まで「ねたみ意識が強い」とは。 他人が良くなることに、「ねたみを抱く」ような精神は、みっともないですよ。 将来を担う若者には、もっと健全な精神を持っていて欲しいものです。

教育、啓発を進めると、これだけ変わってきます

ねたみ意識×参加回数(%)



教育や啓発への参加回数が増えていけば、「ねたみ意識」も、 少しずつ弱められています。でも、ねたみ意識は根強いですね。

心を開けば、誰でも変われるはずです。





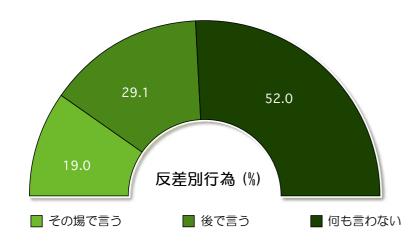
問題解決は「動く勇気」です

[質問] 永いこと地域の世話をしてこられ、みんなの人望も厚い人が、露骨な差別 発言をしました。その時、あなたならどうしますか。

回答(選択)

- 1. その場で「間違っている」と言う 2. 後で「間違っていた」と言う
- 3. 何も言わない

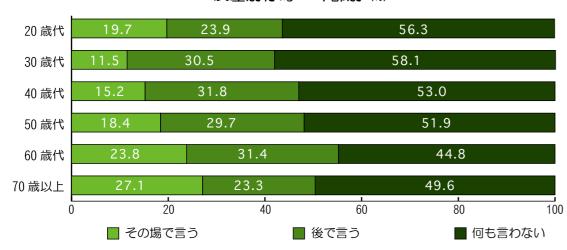
全体の結果です



差別を目の前にして、何らかの言動をすぐしようとする人が2割以下です。

年代別に見てみましょう

反差別行為×年齢別(%)



若い世代が、差別を目の前にして「何も言わない」と半分以上が答えています。 高齢者に比べても、反差別の行動をしない若者が多い事実には驚きます。 差別は、「いま、ここ」で起きているから問題なのです。

「むかし」(江戸時代)の問題だけではありません。 「あす」(あるべき未来)の問題でもありません。 「いま」(現在) 起きているから問題なのです。

「みんな」(社会全体) だけの問題ではありません。 「わたし」(個人の心) だけの問題でもありません。 「ここ」(日常の人間関係) で起きている問題なのです。

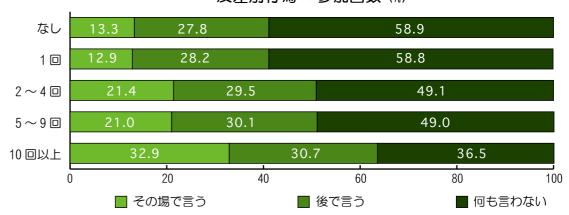


差別は、私たちの周りで起きている具体的な問題です。 だから、差別をなくす取り組みも具体的でないと意味がありません。 差別をなくす、人権を大事にする具体的行為(言動)が問題です。

「正しい」知識だけでは解決できません。 「正しい」認識でも不十分です。 差別をなくすための「具体的行為」が必要でしょう。 「動く勇気」を持ちましょう。

教育、啓発を進めると、これだけ変わってきます

反差別行為×参加回数(%)



教育や啓発への参加回数が増えていけば、「その場で言う」人が増え、 「何も言わない」人が減少していくことが分かります。

動く勇気さえあれば、世の中も変われるのです。





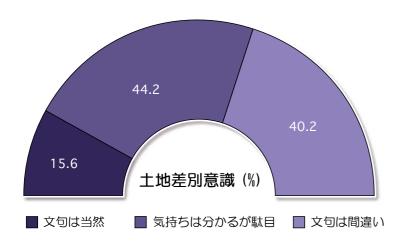
同和地区に対する偏見はみんなの損です

[質問] 同和地区だと知らずに建て売り住宅を購入した人が、そこが同和地区だと 分かり不動産屋に文句を言いました。あなたはどう思いますか。

回答(選択)

- 1. 文句を言うのは当然 2. 気持ちは分かるが、そうすべきではない
- 3. 文句を言うのは間違い

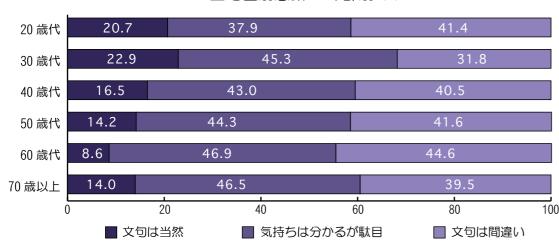
全体の結果です



明らかな土地差別に対して「間違い」と認識している人は4割です。

年代別に見てみましょう



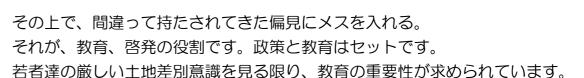


ここでも、若い世代の土地差別意識の強さに驚きます。

土地差別に対して「当然」と容認する意見が、若い世代で最も強くなっています。

同和地区の土地価格は、現状では不当に低く扱われています。 それは、人々の地区に対する偏見と差別意識の結果です。

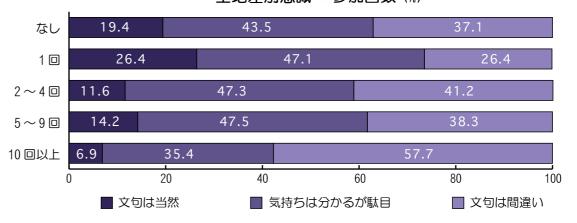
土地差別の解決は、住居環境の改善から始めるべきです。 そのための努力は、全国各地で取り組まれてきました。 「教育、啓発だけでは駄目だ」と国が判断したからです。



土地差別意識が強いところでは、地域全体の発展にもマイナスの影響を与えます。 土地差別意識は、地区の側だけに不利益をもたらすことに留まりません。 地域全体(宍粟市全体)の有効なコミュニケーションを阻害してしまいます。 問題解決に向かうことが、全体にとっても大いなる利益に直結します。

教育、啓発を進めると、これだけ変わってきます

土地差別意識×参加回数(%)



教育や啓発への参加回数が増えていけば、「土地差別意識」は、 徐々に解決していく方向を示しています。但し、参加回数を重ねることが必要です。

偏見を取り除けば、みんな変われるはずです。





人権問題の解決は最重要課題です

「人権」とは、自分以外の人が一生懸命生きている、その人の人生に、 「敬意を持つ」ことです。「尊敬の念を持つこと」です。

高齢者に対する「邪魔者のような」不当な扱い。そんなニュースを見ます。 これまでの生きてこられた人生は、もっと尊敬されてしかるべきでは。

子どもに対する虐待などの「信じがたい」酷い扱い。そんなニュースを見ます。 これから生きていくであろう未来の人生に対して、もっと敬意を持つべきでは。



ニュースに登場する社会問題の多くは、「人権無視」の結果です。 家族も、学校も、会社も、地域でも、今起きている様々な社会問題は、 みんなが「人権感覚」を身に付ける以外、解決しないでしょう。

最後に、「自由回答」に書かれた、ある若者の意見を一つ取り上げておきます。

「差別があるということを事実として受け止め、そのような人や地域にどのような問 題や困ったことがあるかというのを具体的に把握し、それに対してどのように対処し ていけばよいかということを一つ一つ考えできることを実行していく。(20代・女性)」



今回の調査は、宍粟市の依頼を受けて、国連NGO横 浜国際人権センターヒロシマブランチが行いました。 この報告書(ダイジェスト版)の作成も、同様です。

発行年月日 2011年3月

行 宍粟市山崎町鹿沢 65-3 宍粟市人権推進課

TEL: 0790 (63) 0840



